

総務常任委員会会議録

- 1 開会日時 令和5年2月13日（月）午前10時0分
- 2 閉会日時 令和5年2月13日（月）午後0時3分
- 3 会議場所 熊山支所大会議室
- 4 出席委員
3番 安藤 利博君 6番 佐藤 武君 9番 保田 守君
10番 大口 浩志君 14番 松田 勲君 17番 下山 哲司君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者
総合政策部長 山本 幸治君 総務部長 入矢五和夫君
財務部長 戸川 邦彦君 消防長 井元 官史君
秘書広報課長 小引 千賀君 政策推進課長 山崎 和枝君
総務課長 花谷 晋一君 暮らし安全課長 岡本 和典君
財政課長 原田 幸子君 管財課長 大窄 暢毅君
税務課長 光田 尚人君 消防総務課長兼
通信指令室長 檜原 秀幸君
- 7 事務局職員出席者
議会議務局長 土井 常男君 主 任 平尾 和也君
- 8 協議事項 1) 事業の進捗状況について
2) その他

午前10時0分 開会

○委員長（佐藤 武君） 皆さんおはようございます。

ただいまから総務常任委員会を開会いたします。

本日は、閉会中の委員会ですので、特に必要がないということで、市長、副市長、支所長には出席を求めておりませんので、御了承をお願いいたします。

また、換気のため、会議室の出入口については開いたまま進めさせていただきますので、御協力をお願いいたします。

それでは、これから協議事項に入ります。

本日の審査の順序というのを、各協議事項で部ごとに説明、それから質問を受けさせていただきたいと思います。

まず、1番目、事業の進捗状況について、それぞれ説明をいただきたいと思います。

まず、総合政策部から説明をお願いいたします。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） ごめんなさい、課長、ちょっと私のほうから。

本日、事業の進捗状況ということで、まず初めに公共交通に関するアンケート調査というもので、入るんですけども、タブレットの資料にも入っているんですけども、ペーパーでの資料も併せてお手元にお配りしておりますので、今回はアンケート調査、非常にボリュームがありますので、この部分についてはペーパーで皆さんにお配りをさせていただいておりますので、御了承をお願いいたします。

それでは、山崎課長、よろしく申し上げます。

○委員（下山哲司君） ちょっといいか。

○委員長（佐藤 武君） はい。

○委員（下山哲司君） これは総務委員会以外の委員さんにも配付するんですか。

○委員長（佐藤 武君） これは一応委員会の資料ということで、タブレットの資料の中へ入っておりますので、ほかの委員さんも参考に見ていただけるという状況にはなっております。

それでは、課長、申し上げます。

○政策推進課長（山崎和枝君） 総合政策部の資料を御覧いただきたいと思います。

事業の進捗状況についてでございます。

先ほど委員長から御案内がございましたように、ペーパーも用意をさせていただいております。こちら、ボリュームがありますので、かいつまんでの御説明をさせていただければと思っております。

まずは、資料のページをめくっていただきまして、2ページ目でございます。

公共交通に関するアンケート調査の実施結果についてということでございます。こちら、目的といたしましては、地域公共交通計画、計画期間は令和6年度から10年度の5か年の計画を

策定するに当たりまして、市民の移動実態、それからニーズを把握し、計画に反映させていきたいと考えております。そのために、市民の方に対してアンケートをさせていただいております。

2番といたしまして、配布、回収方法でございます。アンケート調査の用紙につきましては、郵送で配布をさせていただいております、回答につきましては郵送での返送あるいはウェブフォームでの回答をお願いさせていただきました。

配布の数でございますけれども、赤磐市内の3,500世帯、高校生以上の方がおられる世帯に対しまして、1世帯当たり調査票を3部配布させていただいております。

実施期間につきましては、令和4年10月14日から令和4年10月31日の2週間あまりで実施をさせていただいております。

5番といたしまして、有効回答数でございます、1,972件の御回答をいただいております。こちらの内訳でございますが、紙での回答については1,636件、ウェブフォームでの回答については336件の御回答がありました。

大変恐縮ですが、紙あるいはデータを見ていただきたいんですけれども、アンケート調査の概要でございますが、別冊の資料の1ページ、2ページのあたりに概略をまとめさせていただいております。こちらはもう集計結果ということでございまして、今後、もう少し地域ごとの傾向など詳細な分析を進めていきたいと思っておりますが、今現在の状況を説明させていただきます。

調査結果の概要ということで、回答者については、別冊の資料としては3ページ以降にはなりますが、回答者の年代は約半数が70代以上、居住地は山陽地域が60.7%と最も多くなっておりまして、世帯構成は2世代世帯が最も多くなっております。

それから、4ページ以降にはなりますが、自動車運転免許保有率につきましては、20代から60代が9割以上である一方、80代以上の保有率は50.1%。また、10年以内に自動車運転免許返納予定の方は70代で22.7%、80代以上で37.8%という結果でございます。

5ページでございます。

よく利用する交通手段は、自動車を御自分で運転するという方が約8割と最も多くなっております。自動車運転免許を持っておられない方と返納した方で見ますと、自動車に乗せていただくという御回答が63.1%と最も多くなっております。

それから、6ページ、7ページになりますと、利用頻度について御回答いただいております、自動車を御利用の方はほぼ毎日利用されている方が65.2%、バスは月に数回以上利用されている方が12.4%、また鉄道につきましては月に数回以上利用されている方が5.6%という結果です。

それから、飛んでいきまして、11ページです。

スマートフォンの保有状況を聞かせていただいております、60代以下の方はほぼ9割以上

がお持ちということでございます。一方で、80代以上の方でも5割ぐらいの方は持っておられるという状況です。

あとは、日常生活における移動、日常的な買物、それから定期的な通院、通勤、通学等の主な利用交通手段等を次のページからずっと書いておきまして、こちらはまたごゆっくり見ていただければと思っております。

なお、今回、コロナという影響もありましたので、22ページのあたりから、コロナの関係でどういうふうに移動の手法というか、頻度等が変わったかというようなこともお聞きさせていただいております。

そして、25ページです。

バスの満足度、重要度についてお聞きをしております。自宅からバス停までの距離や車両の分かりやすさなどの満足度が高くなっております一方で、運行本数や運行時間帯の満足度が低いということもございます。ですが、前回、平成29年度も現在の計画を策定するときにアンケートを実施させていただいておりますけれども、そのときの項目と比較させていただきますと、全ての項目で満足度は上がっているという結果が出ております。

それから、あと重要度というのをも併せて聞かせていただいております、27ページぐらいからになりますが、運行本数や運行時間帯の重要度が高いというふうにお答えいただいておりますが、前回と比較いたしますと、全ての項目で重要度が下がっているという結果が出ております。

あと、29ページ以降は偏差値をつけさせていただいております。

それから、31ページ以降で、市民バスの新たな取組についてどう思われるかというようなことをお聞きしております。予約型乗合バス、いわゆるデマンドバスでございますが、利用したいというお答えは23.7%、それから貨客混載、人と物を一緒に運ぶというようなサービスがありますが、そういうものについて利用してみたいと思う方は、宅配のお店からお弁当などを配達していただくような、そういうイメージのものであれば、40.8%は利用してみたいというお答えをいただいております。また、移動サービスの最適化、予約、決済を一括で行うサービスについては、利用したいというお答えは22.3%。それから、最近是非接触型のキャッシュレス決済もどんどん導入をされておりますが、市民バスで利用したいというお答えは34.4%。また、複数の公共交通の定額乗り放題サービスというようなものも最近出てきておりますが、そういったものについて利用したいという交通機関といたしましては市民バスが最も多く、38.3%というふうに出ております。

それから、38ページ以降でございます、中ほどで公共交通のサービス水準と市の財政負担についてという項目を聞かせていただいております、優先すべき目的としては、高齢者や障害者、妊産婦の移動を便利にするというお答えが54.6%と最も多くなっております。また、市の財政負担の在り方として、現状並みの市の負担で適宜改善を加えながら公共交通のサービス

を維持するべきというお答えを56.2%というふうにいただいております。

なお、39ページ、その他の自由意見がたくさんありまして、代表的なものを記載させていただいております。多く見られた意見の一部ではございますが、こちらに載せさせていただいております。高齢になったとき、免許返納したときに使える公共交通になってほしい。バスの本数を増やしてほしい。瀬戸駅へのアクセスを向上してほしい。通学で公共交通は不便であるというようなお答えが出てきております。

それから、40ページ以降につきましては、アンケート調査の調査票をつけさせていただいております。

今後、この市民アンケート結果、それから事業者さんにもヒアリングをさせていただき、また現行のダイヤの分析、社会情勢などを踏まえまして、来年度の公共交通計画策定を行ってまいりたいと考えております。また、次年度、計画策定と並行しながら事業も進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。また、こちらのアンケート結果につきましては、ホームページにも掲載させていただきたいと思っております。

簡単ですが、以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

総合政策部の説明が終わりました。

本件についての質問があればお願いいたします。

ありませんか。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 急ですから、中身はまだ見れてないんですけど、気がついたところだけ1点ですけど、今、始まる前もここで話があったんですけど、4ページで自動車運転免許を持ってない人10.5%、返納したのが6.9%、大体2割弱の方が免許を持ってないです。要は、その人がバスをどのくらい利用できているか。これが一番大事だろうと思うんです。持っている人は恐らくバスには乗らないんで、持ってない人がどういうふうに行動されているかというのが一番大事だと思うんで、あとの項目いっぱいあるんですけど、持ってない層の回答がどうなっているかというところをまた以後分析して、教えていただければと思います。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 4ページのところの、自動車運転免許の保有のところ、パーセンテージを今は簡単に出させていただいておりますが、クロス集計を今後、もう少しかけていきたいと思っておりますので、またその集計結果が出ましたら再度御報告をさせていただきたいと思っております。今は、もう素の数字ということで。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 揚げ足取るわけじゃないんですけど、実は7ページで、バスの利用頻度で免許証を持ってない、あるいは返納した方は3割以上が月に数回バスを利用しているというふうに書かれているんですけど、私が読むにはこれは反対で、持っていない人も3割しか利用していないというふうに見たほうが正確だろうと思うんです。だから、利用していない7割近くの人々がどうされているのか、あるいはその人たちをどうしていくのか、それがこれからの公共交通の在り方、検討すべきことだろうと思うんで、その辺も一つ、分析の中でよろしくお願いいたします。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 御指摘いただいた点は、再度、分析を進めていきたいと思えます。ありがとうございます。

○委員長（佐藤 武君） しっかりと分析をしていただいているということで、ありがとうございます。私のほうからも、バスの満足度とか重要度ということで、満足の度合いというものも結構な比率を占めているのかなというふうには思います。

それから、市民バスの取組について、今後利用しようと思わないというような比率も結構高いということで、これから公共交通、バスの在り方について、あらゆる方向で検討していかないといけないのかなというふうな認識を持ちました。大変御苦労さまでした。ありがとうございます。

ほかになれば、次に移ります。

次に、総務部から説明をお願いいたします。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 岡本課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） それでは、総務部資料の2ページを御覧ください。

レディオモモ赤磐中継局開局記念番組について御報告でございます。

2月5日日曜日13時から第1部を、16時から第2部を、それぞれ1部については公開生放送で、2部については公開収録で実施をさせていただきました。1部は93人、2部が227人御入場いただきまして、無事事業を終了させていただいております。

報告は以上です。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

ただいまの報告について御質問があればお願いします。

ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） なければ、次に財務部、説明をお願いします。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄管財課長。

○管財課長（大窄暢毅君） それでは、管財課から事業の進捗状況について御報告いたします。

財務部資料の2ページをお願いいたします。

(1) 赤磐市役所本庁舎等整備事業についてでございます。

市役所本庁舎等改修工事につきましては、庁舎の南側駐車場から仮囲いが、また庁舎内においては仮の間仕切りが順次設置され、工事区域の給水や電気の切断が進められております。今後、壁面に足場が設置されるとともに、必要な内装、電気設備等の解体が進んでいくこととなっております。

次に、(2) 赤磐市公共施設等総合管理計画の改定についてでございます。

現在、現行計画（平成28年3月策定）の改定、素案の作成作業を進めているところでございます。今月中には改定後の素案を作成し、来月にはこの素案についてのパブリックコメントを実施する予定としております。委員の皆様にも御案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

このたびの改定は、主に昨年4月に改定された国の指針に基づきまして、市の各種計画等との整合も図りながら、ユニバーサルデザイン化や脱炭素化の推進方針を盛り込み、時点修正も併せて行うことで国の指針を踏襲するものとなっております。今後、公共施設の適正な管理に係る財源として公共施設等適正管理推進事業債、こちらの活用も視野に必要な改定を行うものとなっております。

管財課からは以上です。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

ただいまの事業の進捗状況について質問があればお願いします。

ありませんか。

○委員（保田 守君） 安全に進めてください。

○委員長（佐藤 武君） どうぞ言ってください。

保田委員。

○委員（保田 守君） 解体とか外の足場ができて、近隣の人が通る部分と接触する部分もあるかと思うので、警備員とか安全には十分注意してやってください。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄管財課長。

○管財課長（大窄暢毅君） ありがとうございます。各種看板の掲示から、あと交通誘導員の適正な配置、こちらも行っております。安全には最大限、もう一番に十分注意しながら進めてまいりたいと思います。ありがとうございます。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

ほかには。

安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 念のためですけど、公共施設の管理計画、今、市庁舎の耐震、改修されているんですけど、以前から出ていますほかの赤坂支所とか吉井支所とか、あるいはそのほかの公民館とか、いろいろ公共施設はあるんですけど、その改修計画もこの計画の中に反映されていくというふうに理解してよろしいのでしょうか。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） この計画につきましては、公共施設等の保有、それから維持管理の方法などについて長期的な視点で検討して、財政負担の軽減とか、それから予算の平準化を図るとともに、公共施設の最適な管理を推進するためのものとなっております。

計画につきましては、建物の用途、種別ごとにそういう方針を打ち出しておりますので、支所等の内容も入っているということになっております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） この計画にかかわらず、計画をつくるのが仕事になつとるような場面が多いのかなというふうに思いますので、総花的になることではなくて実践を伴う計画、計画をつくるのが仕事ではなくて実践をするのが仕事ということで、よりボリュームが少なくなっても実践可能な計画にしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 昨今、報道でも国から計画の見直しでありますとか、その辺、されているところでございます。いろんな計画がございますが、委員おっしゃられるとおり、実効的な計画でないと策定する意味はないというふうに思っております。具体的に、どう実務に落とし込んでいくか。PDCAの関係も、きちっと計画にも盛り込んでいきますので、それに合わせたラインに乗って実務を進めていきたいと考えております。

以上です。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 以前、公共施設に関しては、合併当時からずっと引き継いでるわけですけど、それに対してパブリックコメントか何か、審議会を立ち上げてやりましたよね。要するに、極端に言うたら必要なものと必要ないものも含めて整理をするような話があったと思うんですけど、何年前に。それを含めての計画になるんですか。

○財務部長（戸川邦彦君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 戸川部長。

○財務部長（戸川邦彦君） 先ほど松田委員が言われたのは、当時の一番最初に総合管理計画をつくる際の検討の話だと思います。当然、平成28年3月にその計画は策定されております。その計画を策定した際に、赤磐市の目標としては、50年間で公共施設、いわゆる床面積を半減させるという目標を立てております。10年ごとに10%ずつの削減目標を立てております。これにつきましては、10年ごとに計画の見直しをしていきたいと思いますということになっております。当然、令和7年度までの実績を踏まえて見直すのが10年ごとの見直しのサイクルでございます。ただ、昨今の実情、国の脱炭素化などを踏まえまして、今回、特別にイレギュラーにはなるんですが、ここで見直しをかけてくださいと国から指針が出ております。

それはなぜかというところに関わってきますが、この先、いろいろ起債などを借りて公共施設の改修を進めていくに当たって、国としてもある程度の財源の見通しを立てておきたいので、そういう計画を各自治体から吸い上げて、その計画にのっとって国が財政措置をしていこうということになっておりますので、ここでの見直しをかけていきます。そのことに関して、この先財源として、先ほど申しました公共施設等適正化の起債の導入など、先を考えるに当たっては、ここでの見直しは必須と考えております。これにつきましても、適時見直したものを見直していく必要があると思います。先ほど言われたとおり、各支所の使い方、それから公共施設等についても適時見直しは必要と考えておりますので、10年というサイクルではなく、いろいろな場をもちまして、当委員会でも当然のことながら御報告させていただきながら、極力、50年後の床面積2分の1の目標達成のために尽力していきたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

○委員長（佐藤 武君） よろしいですか。

○委員（松田 勲君） よろしいです。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

公共施設の管理については、私も本会議で一般質問させていただきました。大口委員もされたと思っておりますので、いろんな売却とかという具体的な答弁もあったように思っておりますので、実効性のある計画を立てていただくよう、お願いしたいと思います。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） あれは何年前だったのかな。岡大の先生や何かチームができて、赤磐市の公共施設のあれを発表したが。それはもう生きとんか、死んどんか。

○財務部長（戸川邦彦君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 戸川部長。

○財務部長（戸川邦彦君） 私が記憶しているのが、今現在進行中の公共施設の計画というの

は、平成28年3月に策定された公共施設等総合管理計画というものが指針になって進んでいると認識しております。その公共施設の総合管理計画を策定するには、様々なところから御意見をいただきながら策定したものと認識しております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） よろしいか。

下山委員。

○委員（下山哲司君） あの時も少しだけ言うたんじゃけど、要するに部外者のほうが多くて、実質的に赤磐市の中の状況が分からん人がやったように私は思うとったんよ。じゃから、それが今の状況にマッチしとんか、それともそういうふうに押しつけてやるんかの2つじゃと思うんで、押しつけてやるんか、それともいろんな時代に合わせて、金銭面に合わせてやるんか、その辺がもう全く伝わってこんので、その後。だから、今、突然今度はそう言われたら、新しゅうまたやり直すんか思うように聞こえるんで、その辺の説明をしてほしい。

○財務部長（戸川邦彦君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 戸川部長。

○財務部長（戸川邦彦君） 先ほど申し上げました公共施設等総合管理計画につきましては、50年の計画として立ち上げたものでございます。この計画の目標値というのは、確かに高い目標であったと思います。それに向かって進めていく。今回に当たりましては時点修正も含めております。公共施設等総合管理計画が策定された後に、様々な施設の計画が策定されております。それは、当然、学校施設でありますとか、上下水道施設の今後の管理の方法でありますとか、そういった計画とも今回整合性を取っていかないと、ただの絵に描いた餅の計画では駄目だということろを国も指針として出しております。なので、今回については、各自自治体のそれぞれの計画と整合性を取っていきましょうということも一つの指針となっておりますので、市としましても、各担当から計画を吸い上げた上で適正に管理していけるように、今回、時点修正を併せて行うものとしております。

総合管理計画につきましては、その都度修正を、国の当初の指針では10年ごとの修正ということでしたが、それぞれにいろいろ実情があると思います。その都度修正を加えていくのが必要な計画なのではないかなと確認しております。

以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 僕がその当時あれしたとき、一番大きいのは山陽の本庁、赤坂の支所、熊山の支所、吉井の支所、桜が丘のあれは支所とは言えんので、支所とはみなさんのじゃけど、この前も市長が来られたときに、吉井の状況でいうたら、支所が半分あったらええから、半分を診療所に僕らは議員になったときからしよう思ようたんじゃと言うたら、それはい

いですなということを全然してくれてないが、いいですな言うたって。何でそうかというたら、前にも一般質問でも言うたと思うんじゃけど、国が進めるコンパクトシティーのあれを出しなさい言うたってつくらんが、吉井の。出しなさいと国が言うたってつくらんが。自分この全体のしか。そしたら、吉井でも、思ったときにぱっとこういうふうにしたらどんなんな言うてもせんし、全く手を出さんのじゃから、今の言ようるのが、実際にほんならそぐうた計画でもないと僕は思うとるから、今、絵に描いた餅じゃと言われるのはそのとおりに思う。実際に、本当にこうしたほうがええ思うことに進む分じゃないんじゃから、全く。入ってないんじゃけえ。だから、それを前にも、大学の先生がしてもらわんでも、わしらのほうがもっとええのをしちらあと言うたんよ。それが現実じゃと思うん、今の。だから、その辺をどう思うて今後やるんか、市長がおらんから市長聞かんでもええけど、実際にやるもの人間としてはどう思うか。

○委員長（佐藤 武君） 答弁できますか。

戸川部長。

○財務部長（戸川邦彦君） 当然のことながら、赤磐市全体の発展も考えていかないといけない部分があると思います。それから、それぞれの地域の特性を生かしていかないといけない部分もあると思います。現在、その大きな流れとして、この先20年先、30年先の赤磐市はどうなっていくのかというのは考えていかないといけん部分と認識しております。そこに関しましては、当然財務部だけではなく、庁内一丸となって、今、下山委員が言われたように、それぞれの地域がそれぞれの特色のあるような発展を遂げていくような形で進めていきたいと考えております。抽象的で申し訳ございません。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 時間があるから、あれじゃから話をするんじゃけど、合併のときに、私は吉井代表で、トップスターで来たんじゃけど、そのときも言うたんじゃけど、ぱっとやるんなら本庁があって赤坂や熊山支所は要らんじゃろう言うたん。ほんなら、ほかの熊山や赤坂の議員さんに怒られたけど、そのときには一体化しか看板に掲げてこずにスタートして、それで今になったらそうやって各地域を言う。そんなことを言ようたんじゃ、何もできんんないん、計画にも。やると決めたら、たとえ選挙でたたかれようがどうしようがやる方向でせんだら、50年先にこんなんでもやるんじゃという形が見えんがな。その都度その都度するんなら、何も計画じゃありやへん。それを言うんで、いつも。じゃから、やるんならぱっとやる。やらのならやらん。どう思いますか。

○委員長（佐藤 武君） そりゃ、なかなか難しい。

○委員（下山哲司君） 僕のは政治的な考え方じゃから、あんたらは実務的な考え方じゃろうけど、じゃけど市長さんは選挙じゃから、選挙の御機嫌取りで、4年に一遍御機嫌取りで新し

いことには進まんのじゃから。議員はそうじゃないん。じゃから、一番大事なのは話をする場がない、赤磐市には。本来は、総務委員会がここでやらにゃいけんのじゃけど、そういうのをやらんが。じゃけど、今日はいいです、そのぐらいで。言ようたというのを覚えといてください。

○委員長（佐藤 武君） はい。

ほかにはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） ほかになければ、2番目に移ります。

その他の事項に入ります。

まず、総合政策部からの説明をお願いします。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 令和5年3月議会定例会提出予定議案についてでございます、3ページでございます。

赤磐市過疎地域持続的発展計画の変更についてでございます。

こちらは、令和3年9月議会において本計画を御審議いただきまして、令和3年4月1日から本計画を施行しております。この計画につきまして、令和2年の国勢調査の結果の反映と事業の特定財源といたしまして過疎対策事業債を充当するため、変更を加えさせていただきます。

なお、過疎対策事業債につきましては、充当率100%、普通交付税算入70%でございます。

令和2年の国勢調査の結果の変更については割愛させていただきまして、過疎対策事業債を充当させていただきたい事業に係る変更箇所を御説明いたします。

まずは、第5章の交通施設の整備、交通手段の確保というところで、デマンド型市民バス用の車両の購入事業、2台を予定させていただいております。

続きまして、第6章、生活環境の整備というところで、火葬補助金交付事業、こちらを加えさせていただきたいと思っております。

続いて、第7章、子育て環境の確保、高齢者等の保健・福祉の向上及び増進というところで、高齢者福祉施設といたしまして、美咲町にございます一部事務組合で運営しております吉井川荘の空調設備等について、大規模改修事業に係る費用を計上したいために、変更をお願いしたいと思っております。

それから、一番下、第9章、教育の振興ということで、4ページにも少しまたがって大変恐縮でございますが、仁美小学校のプールの改修費用について、新規に項目を追加させていただきたいと思っております。

4ページです。

第10章、集落の整備ということで、仁美農村振興センター整備事業、こちらを追加したいと思っております。こちら、空調設備を改修したいと思っております。

続いて、2番、補正予算について……。

○委員長（佐藤 武君） ごめんなさい、課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） はい。

○委員長（佐藤 武君） これで一応質問を受けたいと思いますので。

○政策推進課長（山崎和枝君） ということで、過疎計画の変更でございました。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

本件についての質問をお願いします。

大口委員。

○委員（大口浩志君） 2個目の火葬補助金交付事業で、変更という書き方をしているんですけど、吉井地区、赤坂地区、ここで2年が終わるのかなと思うんですけど、いわゆる火葬補助金交付事業は、制度が始まってたしか二、三年には、もう既になっていると思うんですけど、これを単純に読むと、過疎債は使っていませんでしたのを使うようにしますという理解をすればいいんですか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 大口委員御指摘のとおり、火葬補助金につきましては令和2年度から実施させていただいております。赤坂地域につきましては、令和3年4月1日から過疎地域の指定になっております。ですので、吉井地域につきましては、令和2年から既にこちらの事業があるんですけども、御指摘のとおり、今回初めて過疎債を活用したいということで、項目を追加させていただくということでございます。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） よろしいですか。

補助金額とかというのは、もうお答えできるんですか。

○政策推進課長（山崎和枝君） はい。

○委員長（佐藤 武君） 補助金額。従来の過疎債を利用しない補助金も出てますよね。そういうところのバランスというのはどんななんですか。

○委員（下山哲司君） 事業計画じゃねえ。

○委員（大口浩志君） それは市民生活になる。

○委員長（佐藤 武君） でも、それぐらい把握しとんじゃねえんか。

○委員（下山哲司君） 事業計画が出にや出ん。

○委員長（佐藤 武君） 事業計画が出ないと答弁できないということなんで、やめときまし

ようか。それじゃ、また次の機会に。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 例えて言えば吉井川荘で載っとんじゃけど、この事業をするというだけしか今決まってないんで。中身はこれからなんで。じゃから、出ないです。

○委員長（佐藤 武君） ということで、了解しました。

じゃ、ほかにありますか。

よろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） ほかになしということで、次に令和4年度赤磐市一般会計補正予算について、説明をお願いします。

○政策推進課長（山崎和枝君） 令和4年度赤磐市一般会計補正予算についてでございます。

総合政策部の資料は、4ページの中段ぐらいからでございます。

こちらにつきましては、歳入、①総務費補助金1億424万3,000円、国庫支出金、国庫補助金、総務費国庫補助金でございまして、理由といたしましては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の増額を予定させていただいております。市の各部署において事業を推進しておりますが、そちらの事業に充当させていただく予定でございます。

②一般寄附金280万円、寄附金、一般寄附金でございまして、企業版ふるさと納税の寄附金の増額を予定しております。こちらは、当初予算で計上させていただいた金額よりも寄附金の歳入が多くなる見込みでございますので、増額をさせていただきます。

続きまして、繰越明許でございます。

①企画費関係事業50万円でございます。こちらが地域データ分析システムの導入につきまして、9月の議会で補正をさせていただいておりますが、こちらのシステムの導入が、当初2月末に導入できる予定でございましたが、いろいろとシステム改修に時間を要しております、システムの導入自体が年度末になることから、このシステムを活用した意識醸成のための研修の実施がシステム構築後になる可能性があることから、繰越をさせていただきたいと考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 令和5年度の予算もお願いします。

○秘書広報課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 小引秘書広報課長。

○秘書広報課長（小引千賀君） それでは、(3)令和5年度赤磐市一般会計予算について説明をさせていただきます。

資料5ページを御覧ください。

広報紙の発行や配布委託、ホームページ管理などを行う広聴事業につきましては、予算計上額2,814万6,000円、前年度比47万9,000円の増額でございます。増額の主な理由としては、広報紙発行業務委託料に紙代等の高騰を考慮させていただいたものによるものでございます。

次に、広報大使の活用、フォトコンテストの開催などを行っておりますシティプロモーション事業につきましては、予算計上額1,320万8,000円、前年度比800万6,000円の増額となっております。来年度の新規事業として、地域活性化起業人負担金を予定しております。これは、SNSを使ったシティプロモーションを目的として、民間の知見を生かした施策を実施するもので、派遣に要する費用として企業へお支払いする負担金を計上しております。

秘書広報課からは以上です。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 引き続きまして、5ページの下段でございます。

政策推進課分でございます。

まずは、歳入、①バス使用料でございます。市民バス・広域路線バス使用料695万円。

②地域少子化対策重点推進交付金、結婚新生活支援事業補助金に対しまして560万円です。

続いて、6ページでございます。

③移住・定住促進応援事業補助金、こちらは県の補助金でございまして、空き家改修補助金500万円、地域公共交通維持確保支援事業補助金577万3,000円、移住支援補助金225万円を予定しております。

④受託収入といたしまして広域路線バス運行受託収入。こちらにつきましては美作市、それから和気町から801万1,000円。

⑤過疎対策事業債でございます。デマンド型市民バスの車両の導入に係る費用380万円でございます。

続きまして、歳出でございます。

①企画費629万9,000円。事業内容につきましては、山陽団地活性化に資する事業や先ほどの地域分析システムの経費等を計上しておりまして、対前年度比増237万5,000円でございます。

②生活交通対策事業でございます。事業内容といたしましては、赤磐市公共交通網形成計画、現在の計画の評価検証業務並びに次期の公共交通計画策定の費用。それから、津山・柵原吉井線共同バス、星のふる里バスの運行経費でございます。このうち、新規事業といたしまして、高齢者・障害者運賃割引制度の導入を検討しておりまして、こちらが6,780万7,000円。生活交通対策事業といたしましては7,882万1,000円、対前年度比6,720万6,000円の増でございます。

新規事業を少し説明させていただきますと、岡山市が導入されておりますハレカハーフという事業がございまして、そちらの導入を検討しております。なお、こちらは中枢連携都市圏構

想の中での事業としても位置づけをされているものでございます。

7ページの③市民バス運行事業でございます。6,748万円。市民バス11路線の運行並びにデマンドバスの運行補助が主な事業内容でございます。また、デジタルサイネージの設置等も予定しております。対前年度995万3,000円の増でございます。

④広域路線バス運行事業3,719万2,000円でございます。赤磐・美作線、赤磐・和気線の運行に係る委託料等の経費でございます。432万8,000円の増となっております。こちらは、12月議会でも御審議いただきました和気線の委託料が増加するという要因でございます。

⑤移住・定住促進事業2,303万1,000円。こちらは、移住相談、移住情報発信事業、クラウドソーシング事業、空き家改修補助、移住支援等の事業でございます。対前年度978万3,000円の増額でございます。こちらが増えた主な原因といたしましては、こちらが本年9月補正をさせていただいた空き家改修補助の予算を、実績を見込みまして、増額させていただいております。

⑥地質資源活用事業240万6,000円。イベント委託料ということで、地質資源を活用いたしましたガイド養成ツアーなどの費用を計上しております。

最後に、⑦結婚支援事業でございます。1,204万円でございます。新婚世帯家賃補助、結婚新生活支援事業、結婚推進協議会に係る補助、それから新規事業といたしまして縁結びネット入会料補助、それから赤磐市オリジナルの婚姻届の作成等を予定しております。対前年度から236万円の増額でございます。

以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

ただいま令和4年度の補正予算と令和5年度の当初予算説明をしていただきましたが、まず令和4年度の補正予算、タブレットの資料4ページになります。この部分についての質問があればお願いします。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 新型コロナウイルスの追加なんですけど、これはもう決定した金額ですか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） こちらは、国の内示があった最終の金額なので、決定でございます。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 事業内容は各市町村でやったらいいという内容のものですか。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） こちらの臨時交付金の活用につきましては、それぞれの市町村、自治体でどのように活用していくかというのは、計画を立てて使っていくということでございます。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 以前、給食のあれを3月いっぱいまでやっとするのかな。その仮に4月、5月、6月とか追加でというようなことは、可能なんですか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） こちらについては、令和4年度事業に対して使ってくださいというものになるので、物によっては一部、今、計画をしているものを繰り越すというようなのはあるんですが、基本的には今年度内で使ってくださいということです。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 今年度内で使うというたら、3月1月ということは、もう事業が決まっとなんかということですか。事業内容を聞きよんじゃないんで、決まっとなんかということ聞きよんじゃから、答えてほしい。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） こちらの事業については、事業内容はそれぞれの部署で決めております。

○委員長（佐藤 武君） 実施済みの事業にも充てられるということでもいいんですか。そうではないんですか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 実施済みの事業といいますのは、あくまでもコロナ交付金をこういう計画で使いたいというふうな申出を、県を通して国にさせていただいておりますので、そちらの事業に充当するものではなく、今回事業として新たに立ち上げるようなものでございます。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） じゃから、交付金を立ち上げるんじゃないから、一月でやるということはもう今決まっとなんかですかというて、内容が。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 私の説明がもとらなくて大変申し訳ないです。

今回、補正予算をさせていただく事業は、事業内容は決まっております。一部、繰越ができるものはありますが、先ほど言われました給食費たるものについては、あくまでももう令和5年以降のものということになりますので、それに対して充当するという事は、なかなかできかねるということではございます。

○委員長（佐藤 武君） よろしいですか。

○委員（下山哲司君） よろしいです。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、補正予算についてはこれで質問を終了します。

ここで、11時5分まで休憩をします。

午前10時55分 休憩

午前11時5分 再開

○委員長（佐藤 武君） 休憩前に引き続き委員会を再開します。

次に、令和5年度の赤磐市一般会計予算についての質問を受けたいと思います。

タブレット5ページから受けますので、お願いします。

大口委員。

○委員（大口浩志君） どこまで質問していいんか分からんですけど、シティプロモーション事業の中の新規事業、ざっくり言うと2点ほどなんですけど、これはまず考え方として、鳥取県や島根県がやっておられる週末副業で、経営者の方々とかにアドバイザーボード的に御意見をいただいたり、DX絡みや地域振興の手助けをしていただくような知見をいただくような事業をやられるんですけども、そういうふうなもの理解をすればいいのかというのが1点と、もう一つは、もしかしたら誰か1人を委嘱してということになっているのかと、それとここで広報・シティプロモーション事業でのDXと書いてありますが、あえて総務なら総務が持っていて、皆様御存じのように、高梁市がGIGAスクール構想をより有意義にするためにというところから始まって、こっちの広報シティプロモーションへもウイングを広げていくというようなことをもう三、四年やられて、それなりの結果が出ているというふうにも聞いているんですけども、あえて広報シティプロモーションに限定せずとも、DX人材は多分、今、全国的に取り合いになっているのではなかろうかなというふうにも思いますので、考え方を、お答えいただける範囲でお答えをいただけたらと思います。

○秘書広報課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 小引秘書広報課長。

○秘書広報課長（小引千賀君） まず、1つ目の答えについてなんですけれども、週末副業という形ではなく、1人派遣していただいて、こちらに机を設けさせていただいて、一緒にお仕事させていただくというイメージでさせていただきます。

このシティプロモーション事業、新規事業800万円上げさせていただいてるんですが、週3日以上、月の半分以上、赤磐市でお勤めしていただくことによって特別交付税措置が560万円受けられますので、そちらを活用させていただこうと思っております。残りの財源につきましては、ふるさと応援基金を充てさせていただいて、こちらで事業をしたいと考えております。

2つ目の御質問につきましては、私どももシティプロモーション事業だけにとどめるつもりはございませんで、併せて市内、庁内のDXにつきましても、シティプロモーションにつながるものと考えておりますので、そういった知見のある方に来ていただいて、全体的な課題についても御相談させていただきたいと考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 本番でしっかりと。

ほかにございますか。

○委員（保田 守君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 保田委員。

○委員（保田 守君） 6ページでいいんですか。

○委員長（佐藤 武君） 6ページいいですよ。

○委員（保田 守君） 移住・定住促進応援事業ということなんですけど、これは何戸ぐらいを予定しとんですか。空き家改修補助金とか移住・定住の補助金、支援補助金ですか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎政策推進課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） まず、空き家改修補助金は1件、上限ですけれども100万円でございます。令和5年度につきましては10件を予定しております。そのうち、2分の1につきましては、空き家改修補助金は500万円でございます。6ページのところです。こちらは1,000万円の総事業費に対して、2分の1の補助を県からいただけるということです。

それから、移住支援補助金につきましては、まず大人の方がお一人来たら100万円です。子供さんを帯同されましたら1人につき100万円ということで、3人いらっしゃるというイメージでございます。それに対して県の補助率が4分の3いただけるということです。一応、移住支援の対象の方はお一人というイメージでございます。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 保田委員。

○委員（保田 守君） 空き家も、この移住支援金も、両方とも同じ人が申請できるということですよ。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 場合によっては、そういう可能性もあります。移住支援補助金で、東京23区から赤磐市に来られた方が空き家登録バンクに登録された空き家を購入ないし

賃貸されて、おうちをちょっと直したいなというようなことがあれば、空き家改修補助金も御活用いただけます。

○委員長（佐藤 武君） 保田委員。

○委員（保田 守君） 登録バンクに登録していない建物じゃったら対象外ということですか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 空き家改修補助金につきましてはそうです。登録していない空き家については対象外にはなるんですが、本年度は。来年度は少し要件を、言っているんですか。

○委員長（佐藤 武君） 次は本番でお願いします。

○政策推進課長（山崎和枝君） では、今日はそこですいません。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

○委員（保田 守君） もう一問だけいいですか。

○委員長（佐藤 武君） 保田委員。

○委員（保田 守君） 7ページの、同じように移住・定住促進事業が上がってんですけど、これと今の6ページのは完全に別個なもんですか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） ⑤の移住・定住促進事業の中に、先ほど移住支援補助金の額をお伝えしたんですが、300万円につきましてはこちらの2,303万1,000円の中に含まれております。ですので、移住支援というところに入っております、その費用に対して6ページの県補助をいただけるというイメージでございます。

○委員（保田 守君） 分かりました。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

本番に向けて取っておきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、総合政策部を終わりにして、次に総務部から説明をお願いしたいと思います。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 花谷課長。

○総務課長（花谷晋一君） 総務課から、令和5年3月議会定例会提出予定議案について御説明いたします。

総務部の資料3ページを御覧ください。

3件の人事案件を予定しております、(1)から(3)、副市長、監査委員、固定資産評価審査委員会委員、いずれも選任について同意を求めることについてとなりますが、明日開催されま

す議会全員協議会で詳細は御説明申し上げたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

続きまして、(4)赤磐市情報通信技術を活用した行政の推進等に関する条例につきまして概要を説明いたします。

情報通信技術の活用によりまして自治体DX推進計画、国が策定しておるわけですが、その重点取組事項の一つであります行政手続の電子申請、オンライン化につきましては、2022年度末までにマイナンバーカードを用いて利用者の利便性向上を図るため、オンライン化対象手続につきまして申請管理システムを整備することとされております。これらの行政手続につきましては、通常、紙で、書面による手続を基本としていたものでございますが、その都度、他の条例等を改正することなくこの電子申請による手続をスムーズに可能とするようにこの条例を定めるということで、情報通信技術を活用した行政の推進等に関する法律というのがございまして、第13条第1項の規定に基づきまして本条例を制定するものでございます。

施行日は、令和5年4月1日を予定しております。よろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

取りあえず質問をお願いします。

大口委員。

○委員（大口浩志君） 総務課の特に(3)のやつ、固定資産評価委員さんというのが、選任に関し、私、たまたまの民生委員さんの推薦委員会へ行けということで仰せつかって行くんですが、だんだんその選任が正直しんどくなっているという状況は、ここ何年もそういう状況のようなんですが、例えばこういうものについても、いわゆる選任をお願いする際に、担当が総務課なら総務課の御苦勞が大分要り出しているのか、この辺についてはまだおかげさまでという状況なのか、その辺の状況だけ教えてください。

○委員長（佐藤 武君） 状況について、よろしいですか。詳しくは全員協議会でお願いしたいと思います。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 花谷総務課長。

○総務課長（花谷晋一君） なかなか、そういうふうに各委員さん、選任がしにくい状況にある部分もございまして、このたびの固定資産評価審査委員会の委員さんにつきましてはスムーズに選任ができていうことで、明日聞いていただきましたら、なるほどというふうに思っていたのかなと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） マイナンバーカードをまだ作ってねんじゃけど、もうどうしても作らにゃおえんな、これは。立場上。それだけ聞いとこうか思う。作らんでもええもんなら。

○委員（大口浩志君） そりゃ、ここで作らんでええとは言えんわ。

○委員（下山哲司君） いや、作っとかにゃ困ると言われるなら作るし。いや、立場上の話で。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 花谷総務課長。

○総務課長（花谷晋一君） マイナンバーカードを作らないと駄目かというような御質問であったと思います。

市としましては、マイナンバーカードの取得につきまして推進をさせていただいておりますので、また国の動きとしまして保険証、免許証、そういうところをマイナンバーカードに移行していこうという動きもございますので、御協力をいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） ということでございます。

それでは、ほかに質問もないということで、次に移りたいと思います。

4 ページ、5 ページになります。

(5)の一般会計補正予算、それから続けて(6)、6 ページになりますが、令和5年度の一般会計予算について説明をお願いしたいと思います。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 花谷総務課長。

○総務課長（花谷晋一君） それでは、(5)令和4年度赤磐市一般会計補正予算について概要を説明いたします。

資料は4 ページを御覧ください。

総務課の予定しております補正予算は、主に歳出予算3件とそれに伴う歳入予算の2件を予定しております。

ページの中ほど、歳出を御覧ください。

①一般管理費につきましては、産休代替による会計年度任用職員の報酬の減額や職員旅費の減額を予定しております。

次に、②住民情報システム運営管理事業につきまして減額補正を予定しています。これは、国が市町村を經由してマイナンバーカードの関連経費を地方公共団体情報システム機構という、いわゆるJ-LISと呼ばれている団体へ支払っておりましたが、デジタル庁ができたということで、デジタル庁から直接J-LISへ支払うというような仕組みができたため、歳入歳出予算が双方不要となったということで、減額補正を予定させていただいています。

③につきましては、参議院議員選挙が事業費確定しましたので、歳入歳出同額の減額補正をさせていただいているものでございます。

補正につきましては以上です。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 岡本くらし安全課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） それでは、令和4年度一般会計補正予算についてでございます。

総務部資料5ページを御覧ください。

くらし安全課分につきましてですが、歳出2件とそれに伴う歳入の減額の補正でございます。

歳出から説明をさせていただきます。

①総務費、防犯対策費の防犯カメラ設置補助金、これは地区町内会に対しての補助金でございますが、予定されておりました防犯カメラの設置を中止されたということで、減額になっております。

②としまして、消防費の災害対策費で会計年度職員報酬と自主防災組織活動支援事業補助金、こちらが360万円の減となっております。会計年度職員につきましては、衛生用品配布事業に採用する予定であった会計年度職員が人数を下回りましたので、これに伴う減額及び自主防災組織に対しての活動補助金、こちらが見込みを下回ったことで減額となっております。これに伴いまして歳入、県補助金の減額ということで、補正をさせていただきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

引き続き、令和5年度の予算をお願いしたいと思います。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 花谷総務課長。

○総務課長（花谷晋一君） それでは、(6)令和5年度赤磐市一般会計予算について概要を説明します。

資料の6ページを御覧ください。

総務課の予定しております予算につきまして、主なものと新規事業のみ御説明いたします。

ページ中段の歳出を御覧ください。

①は総務管理費の人件費となります。前年度対比、減額が6,363万9,000円となっております。この主な要因としましては、定年延長の制度を活用する関係上、定年退職者がこれまで毎年出ていたものが、5年間で退職する人間が10年間かけて退職することになりますので、その対象組合の負担金が少し減額になる関係上、これが影響しております。

続きまして、②内部情報システム運営管理事業につきましては、庁舎改修工事に合わせまして、内部情報系の職員が使っておりますネットワークのLAN配線を無線化する経費の計上を予定させていただいております。これによりまして、移動のたびに配線工事を今しておるわけなんです、そういう工事が不要になることや、今後は窓口での住民サービスの拡大につなげていけるものと考えておりますので、よろしく申し上げます。

7ページを御覧ください。

③自治体DX推進事業ということで、事業自身を新規事業として計上する予定としております。今後、全自治体が取り組んでいきます住民情報システムの平準化に向けて、これは令和7年度を目指してこれからシステムの平準化をしていくわけなんです、それに関連する経費を計上させていただいているものと、先ほど総合政策部の説明のときに大口委員から御質問がございましたデジタル人材、そういうもので週末などに研修でありますとか、市のDX推進について御助言いただけるDX人材の確保に関する経費を少し見込ませていただいているものでございます。

④は選挙費でございます、県議会議員選挙の経費の計上を予定しております。県議会議員選挙は4月になってから選挙がございますので、令和5年度にも執行する経費を計上させていただいたというものを予定しております。

総務課からの説明は以上です。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 岡本くらし安全課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） それでは、総務部資料の8ページからでございます。

くらし安全課分につきましてはですが、歳出から説明をさせていただきます。

①といたしまして、防災行政無線管理事業でございます。こちらの施設の保守点検等の事業に係る費用として1,250万1,000円を計上させていただいております。

②としましてFM管理事業、これはFM放送中継局の管理及びイベント委託料としまして、来年度からスクールリクエストといたしまして、市内の小中学校の皆さんに御協力をいただきまして、自分たちの好きな曲をリクエストするとともに、学校や地域の活動状況について紹介をすると、こういった事業を新たに予定させていただいております。あわせて、中継局のバッテリー交換が4年に一度ということで必要となっておりまして、こちらの費用としまして1,028万6,000円計上させていただいております。

③としまして行政推進費、こちらは地区町内会に対してお支払いする行政事務連絡業務委託料としまして4,687万4,000円計上しております。

④としまして防犯対策費、これは市管理の防犯灯の電気料、それからリース料、防犯カメラの地区への補助金等で3,962万9,000円計上しております。

⑤としまして、交通安全対策事業としまして交通指導員の報酬、安全施設の修繕、交通指導車の購入、踏み間違い防止装置の整備補助金等で1,194万円を計上しております。

⑥でございますが、消費生活推進事業としまして消費生活相談員の報酬、特殊詐欺等被害防止対策の機器の設置補助金等で629万7,000円計上しております。

⑦としまして防災費、こちらにつきましては災害用の備蓄品あるいは自主防災組織への活動支援補助金、これで1,498万6,000円計上させていただいております。

歳入につきましては、消費者行政活性化補助金と地域防災力強化総合支援補助金ということで、いずれも県補助金を計上させていただいております。

説明は以上です。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

総務部から説明がありました。

まず、令和4年度の補正予算について質問を受けたいと思います。

タブレットの4ページ、5ページで質問を受けます。

ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、補正については質問なしということで、次にタブレット6ページからになります、令和5年度の一般会計予算について質問があればお願いします。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） ②の内部情報システムの下の新規事業で庁内ネットワーク無線化事業ということなんですけど、これ今、仮庁舎に取り付けるわけですよ。また、工事が終わったら帰っちゃいますけど、そのときには、もうここまでの費用はかからないってことなんです。帰るときまでを含めて、これだけの工事が要るよということなんですか。

今の御説明では、何か無線化すれば配線とかが必要なくなるんですよみたいな御説明だったので、工事が終わってまた元に帰りますよね。そのときには、こんなに費用はかからないということと理解してよろしいのでしょうか。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 花谷課長。

○総務課長（花谷晋一君） すいません。説明が不足しておりました。

これは、工事の進捗に合わせて、工事ができたところから追加していくというものでございまして、令和6年の工事ができた部分につきましては、また無線の工事につきまして計上させていただきたいということですので、移設等をしないように、なるべく経費がかからないように調整をしてみたいというふうに考えております。よろしくをお願いします。

○委員長（佐藤 武君） いいですか。

○副委員長（安藤利博君） よく分からんけどいいです。

○委員長（佐藤 武君） これからの事業なんでやっていくと。

大口委員。

○委員（大口浩志君） ざっくりとした問合せになるかもしれませんが、歳出の①に職員人件費と上げていただいて、対前年度比で減っていますよという御報告なんですけど、行政職も含め、保育園の職員さん、幼稚園の職員さん、いろんな職員さんがおられますけど、今ちょうど時代が大きく変わろうとしている時期だと思うので、こうなればなるほど1人当たりの職員さんに対する負荷がよりしんどくなるのかなというふうに危惧するんですが、その辺についてはどうなんでしょうか。

○総務課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 花谷総務課長。

○総務課長（花谷晋一君） 職員数と業務量のお話であったのかなと思います。

職員の数につきましては、行政職、保育、幼稚園職員につきましては、現在、第3次赤磐市定員管理計画の中で定めておまして、人数を増加させない、減少させない、横ばいということで策定をさせていただいたところがございます。その中で、いかにこれから増えていく業務をやっていくかということがございますが、その中へ今のDXなどを活用しまして、住民サービスが一番ではございますが、それプラス業務が削減できるような方法を、成功事例を見ながら導入してまいりたいというふうには考えております。また今後、予算等も3月議会等で御説明を差し上げる部分はあろうかと思いますが、より厳しい財政状況になっておりますので、そういった部分で、業務の見直しなども行いながら様々な調整をしていかなければならないのかなというふうには考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 多分、特に人件費に関しては、計画どおりというか、計画に加速度がつくぐらい、ある面、進捗率という意味では数字がいいのかなというふうに思いますが、前段でございました公共施設が減るのが減らず人間だけが減っていくと、いろんな不具合が出るのかなと。多分、公共施設に関しては、もしかしたら増えている部分もあるのかなという部分も含めて、その辺との兼ね合いを一番危惧するということで、答弁は結構です。もう、その辺を職員一人一人に負荷がかかればかかるほど、しんどくなって休まれる方が仮に増えたとすれば、また負荷がかかるような悪循環に、そうすると結果として今日のことだけしかできないということに陥っても駄目だと思いますので、その辺のバランスを図りながらやっていただけたらと思います。

○委員長（佐藤 武君） 答弁はよろしいですか。

○委員（大口浩志君） はい。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、ないということで、次に移りたいと思います。

次に、財務部からの説明をお願いしたいと思います。

○財政課長（原田幸子君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 原田財政課長。

○財政課長（原田幸子君） 財務部資料の3ページをお願いします。

令和4年度赤磐市一般会計補正予算について、財政課分を御説明いたします。

まず、歳入ですが、主に決算見込みによる増減でございます。

主なものといたしまして、④地方交付税は、国からの交付決定によりまして1億2,154万9,000円を増額するものです。

次に、⑥財政調整基金繰入金は、補正予算による財源調整のため、1億5,743万6,000円を減額するものです。

次に、4ページに移っていただきまして、歳出ですが、主なものといたしまして、③特定目的基金費は、基金運用利子収入の決算見込みによる積立金の利子収入、地域食材供給施設基金廃止による公共施設等整備基金への積立金及びふるさと応援寄附金の実績額が確定したことによります積立金で、合わせまして1億9,072万7,000円を増額いたしております。

以上です。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄管財課長。

○管財課長（大窄暢毅君） それでは、引き続きまして、管財課から令和4年度一般会計補正予算について御説明をいたします。

財務資料は続きの4ページ、一番下のあたりとなります。

歳出でございますが、2款総務費、1項総務管理費、5目財産管理費におきまして、公共施設等総合管理計画事業費を実績見込みにより220万円減額とさせていただくものです。

次に、5ページをお願いします。

繰越明許費につきましては、同目におきまして、庁舎等整備事業の経費を6億9,017万円、こちらを次年度へ繰越をさせていただくこととしております。

管財課からは以上でございます。

○税務課長（光田尚人君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 光田税務課長。

○税務課長（光田尚人君） それでは、税務課からでございます。

引き続き、5ページでございます。

税務課からは、歳出、総務費、徴税费、賦課徴収費の委託料382万8,000円を実績見込みによ

り、特別徴収税額通知の電子化に係る経費を減額するものでございます。こちらは令和4年度実施予定のシステム改修でございますが、主に統一的な文字の同定作業が中心の作業でございます。こちらにつきまして、デジタル庁から文字セット、文字コード等についての確定的な連絡が遅れておまして、結果的に令和5年になって示されたという経緯でございます。つきまして、基幹システムや納税システムとの連動や設定について適切に行えるよう考慮し、令和5年度のシステム改修に合わせて、新しい手順書をもって改修を行ってまいりますので、よろしくお願ひします。

以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

引き続き、令和5年度の一般会計予算についても説明をお願いします。

○財政課長（原田幸子君） 続きまして、(2)令和5年度赤磐市一般会計予算について、財政課分について御説明いたします。

予算総額ですが、200億1,001万8,000円で、前年度比で5.0%、10億6,382万3,000円の減額となっております。

歳入ですが、主なものといたしまして、①地方揮発油譲与税から、6ページにわたりました、⑦地方特例交付金までの地方譲与税及び交付金は、国や県の見込額に合わせて、前年の見込みなども確認した上で計上いたしております。

⑧地方交付税は、前年度実績、国の増減率を勘案し、66億8,000万円で計上しております。

⑨財政調整基金繰入金は、一般財源の不足額を補うもので、11億1,494万9,000円を計上いたしております。

⑩臨時財政対策債は、国の増減率によりまして計上いたしました。

7ページを御覧ください。

歳出ですが、①財政管理費は、予算編成、予算管理に関する経費等を計上いたしております。

②企画費は、行財政改革を推進する経費として計上いたしております。

③財政調整基金費、④減債基金費、⑤特定目的基金費は、基金運用利子による積立て等を見込んで計上いたしております。

⑥、⑦公債費は、長期借入債の償還元金と利子及び一時借入金の利子を計上しております。

8ページに移っていただきまして、⑧予備費は、今年度と同額の5,000万円を計上いたしております。

財政課からは以上です。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄管財課長。

○管財課長（大窄暢毅君） それでは、管財課から引き続き一般会計予算について説明をさせ

ていただきます。

資料8ページの続きからとなります。

歳入の主なものとしまして、8ページの中段あたり、③財産貸付収入としまして241万6,000円を計上しております。こちらにつきましては、市が貸し付ける土地や建物の収入となっております。

次に、⑤市債におきましては、3億2,460万円を計上しております。内訳としまして、23款市債、1項市債、8目過疎対策事業債160万円を仁美農村振興センターにおけるエアコンの整備費として、また同項13目合併特例事業債3億2,300万円、こちらは庁舎等整備事業に係る事業費分となっております。合併特例事業債につきましては、対象事業費が3億4,005万円、こちらの95%の充当となります。

次に、9ページから歳出となります。

主なものにつきましては、②2款総務費、1項総務管理費、5目財産管理費4億5,449万2,000円、こちらは本庁舎、庁用車、公有財産の管理、公共施設等総合管理計画、庁舎等整備事業に係る経費となっております。先ほど説明の仁美農村振興センターのエアコン整備費、こちらはここで計上をしております。庁舎等整備事業としましては、令和5年度は3億7,178万4,000円計上しておりますが、主には庁舎改修に係る工事請負費となっております。

③7目支所及び出張所費につきましては、4,329万4,000円を計上しております。

④12目施設管理費3,625万6,000円、こちらにつきましては、桜が丘いきいき交流センターの管理運営に係る経費でございます。特に、令和5年度に関しましては、EV車の高速充電器の更新を予定しておりまして、その経費も含んでおります。

なお、③、④の支所、出張所及び桜が丘いきいき交流センターにつきましては、対前年度比が軒並み増となっております。光熱費の上昇、電気料金の上昇に伴う影響となっております。

最後に、債務負担行為としまして、本庁舎等改修整備事業に係る事業費につきまして、昨年度と同様に令和6年度までの上限額を計上させていただいております。

管財課につきましては以上でございます。

○税務課長（光田尚人君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 光田税務課長。

○税務課長（光田尚人君） 引き続きまして、税務課分について、お手持ちの資料10ページからでございます。

歳入でございますが、市税が市民税、固定資産税、軽自動車税、次いで11ページに参りまして、市たばこ税でございます。実績と社会動向を勘案いたしまして、記載のとおり計上させていただいております。それから、たばこ税の下に県からの委託金の歳入も計上しております。

また、歳出につきましては、総務費の徴税费ということで、1目税務総務費、2目賦課徴収費で、それぞれ税務総務費につきましては1,237万4,000円、賦課徴収費が8,938万9,000円を計

上させていただきます。

以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

以上で説明が終わりました。

それでは、令和4年度の補正予算についての質問を受けたいと思いますので、お願いします。

ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、次に令和5年度の一般会計予算について、何かあればお願いします。

よろしいですかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） 本番で十分やってください。

それでは、次に消防本部の資料を開いてください。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 消防本部からは、令和5年3月議会定例会提出予定議案についてでございます。

初めに、令和4年度赤磐市一般会計補正予算について、歳入から2件説明させていただきます。

諸収入の山陽高速自動車道救急受託事業収入における支弁金確定により143万4,000円減額するものでございます。

同じく、諸収入の岡山県消防防災ヘリコプター人件費交付金額決定により139万3,000円増額するものでございます。

続きまして、令和5年度赤磐市一般会計予算について、歳入から説明させていただきます。

昨年とほぼ同じ事業内容でございますが、令和5年度は過疎対策事業債を使用させていただき、小原上の可搬積載車と小型動力ポンプの更新を計画しております。

歳入では、使用料及び手数料の赤磐市手数料条例に基づく危険物施設の許可、検査、煙火の消費許可、火災、救急搬送証明に関する手数料を計上させていただきました。諸収入の山陽高速自動車道救急受託事業収入として、山陽自動車道救急業務支弁金の令和4年度実績金額を計上させていただきます。同じく、諸収入の岡山県消防防災航空センターのヘリ搭乗員に派遣している人件費を計上させていただきます。

次に、市債の各地区消防施設整備における可搬積載車、小型動力ポンプ更新事業費を計上させていただきます。

続いて、歳出の常備消防費からの主なものについて説明させていただきます。

常備消防費の職員人件費につきましては、職員81名分の給与、各種手当、共済費を計上させていただいております。

続いて、施設維持管理事業でございます。これについては、施設管理事業費を計上させていただいております。

次に、職員教育事業は、救急救命士教育事業、消防学校教育事業費を計上させていただいております。

次に、非常備消防費でございます。非常備は、消防団に係る経費でございます。消防団報酬は、団員に対して条例に基づき支払うため、報酬を計上するものでございます。

次に、費用弁償は、消防団員の各種訓練、出動に関する経費を計上しているものでございます。

次の消防団福祉共済事業は、消防団の活動補助金及び消防団の福利厚生などを目的に、損害補償や退職報奨金に係る総合事務組合負担金や団員福祉共済制度掛金を計上しております。

続きまして、消防施設費は、各地区が行う消防施設事業費に係る補助金を計上してございます。

以上、簡単でございますが、説明とさせていただきます。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

それでは、まず令和4年度の補正予算について質問があればお願いします。

ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） なければ、次に令和5年度の一般会計予算について質問があればお願いします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、本番でしっかりとお願いします。

それでは、質問をこれで全て終了します。

執行部からその他について、特にありましたらお願いします。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 岡本くらし安全課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） その他についてでございますが、赤磐市地域防災計画の改定業務について、御説明と御報告をさせていただきます。

現在、地域防災計画の修正業務を行っているところです。2月17日から3月7日までの間、パブリックコメントを実施する予定でございます。議員の皆様方にもぜひ御意見をいただきたいと考えておりますので、地域防災計画の修正案を議会事務局へお預けさせていただきますので、御覧いただきまして、御意見等ございましたらぜひお寄せいただけたらと思います。

今回の主な改正内容につきましてですが、個別避難計画、これは国が進めておりますので、こちらについての作成に係る内容を追記させていただいております。避難情報が避難指示と避難勧告、これが一本化されて避難指示に統合されておりますのでこのあたりのこと、それから避難所における新型コロナをはじめとした感染症対策、こういったものについても追記をさせていただきます。

もう一点、報道等で御承知だと思いますが、トルコ、シリアで大きな地震によって災害が起きております。赤磐市でも、AMD Aと協力をいたしまして募金を行っております。ぜひ、募金に御協力いただきたいということと、周知に御協力いただけたらと思っております。

なお、募金のほうは今のところ、AMD Aを通じてということでございますが、総社市はピーク・エイドという登山家の野口健さんの団体と協力をして寝袋を現地に送るというような事業も実施しております。こちらについても、赤磐市もぜひ協力をいただきたいということでお話が来ておりますので、どこまで御協力させていただけるかということについて、今後検討させていただきたいというふうに考えております。

報告は以上です。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

ほかに、執行部からはございませんね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、委員さんから特に何かあれば。

大口委員。

○委員（大口浩志君） その他のその他で2件ほどお尋ねをさせていただきます。

1件は、岡山市を中心とした連携協定の中に赤磐市が周辺市町と一緒に協定を結んでいると思いますけど、最近、ニュース等で今年度新しい市民会館、ハレノワが完成するというような報道が盛り上げるために多々増えてきているなという部分で、僕は以前もお聞きしたことがあったと思うんですが、改めて岡山市民が使うのと赤磐市民が使うのと料金の差異があるのかどうかということと、関係してほかの市町が持っているもの、例えばお近くでしたら旧佐伯町にあるサエスタというこの辺ではすごいホールがあると思いますけども、その辺の料金的な使い勝手云々とかは、協定というか、どういうふうになっているのかがもし分かれば教えてください。まず、1点目です。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） まず、岡山市がこれからオープンをするハレノワの件です。これ、大口委員がおっしゃられましたように、中枢連携の枠組みの中で位置づけられている事業でございます、こちらの利用料金、詳しい金額は多分、まだこれからだとは思いますが、今お聞きしている範囲では、例えば岡山市の方であっても赤磐市の方であっても利用

料金は同じ、連携中枢ということは置いといても、特に差はないというふうにはお聞きしております。詳しい料金体系はまだ把握できておりませんので、申し訳ございません。

あと、次に和気町、佐伯の地域にありますサエスタの件ですが、私が存じ上げている範囲内では、こちらも町民であろうが、町民外、町外の方であっても、特に金額の料金の差はないというふうには聞いております。

以上です。

○委員（大口浩志君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） ありがとうございます。

そしたら2点目、浪江町に関わることはこの委員会でお尋ねをすればいいんですか。

○委員長（佐藤 武君） 聞く内容によると思うんですが。

○委員（大口浩志君） 連携絡みです。

○委員長（佐藤 武君） 言ってみてください。

○委員（大口浩志君） そしたら、多分10年ぐらいは経過したのかなど。職員さんの派遣等も含めて、よその市町さんに比べたらすごく結びつきが強いのではなかろうかというふうに感じておるんですが、その部分についてはそれで結構なんですけど、この間、たしか11月ぐらいだったと思いますけど、環境センターと消防の共同フェスのようなのをやられた際に、環境センターで焼きそばを焼きに来られとったのをお見かけいたしました。基本的には、赤磐市からこういうのがありますからどうですか的な御案内をした結果だとは思っているんですが、一番危惧するのは、浪江町さんの負担にもしかしたらなっていないかという配慮も、赤磐市としては要るのではなかろうかなど。私が逆に浪江町の立場でしたら、赤磐市から来たオファーには、そりゃ行こう行こうというような話に必然的にはなると思います。ですけど、それが負担感ということにつながっているんですしたら、本末転倒かなというふうに思います。来られとるメンバーが入れ替わり立ち替わり来られておるのか、ほぼ固定メンバーが来られているのかまでは存じませんが、それを送り出す側の人たち、もしくは御家族という方々の意見を、昔風に言えば付度してあげる部分も必要なんでは、どうですかと聞いたらそれは問題ありませんとしか、それは言われなと思います。私でも言いません、浪江町の立場であれば。その辺を赤磐市としてはどういうふうにご考えておられるのかなというのが、もしお答えがいただけたら教えてください。

○委員長（佐藤 武君） 答弁できますか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 浪江町とは包括連携を締結させていただいて、はや1年、2年ぐらいになります。それ以前から、おっしゃられましたように、災害が起きてから職員の派

遣ですとかというようなことを十数年、11年、もう12年になりますが、させていただいております。その中で交流が生まれてきたと。それまで全く御縁もなかったような、浪江町と私ども赤磐市と御縁ができて、交流も進んでいるというところでございます。

おっしゃられますように、私どものイベントにも、久しぶりです。コロナがあったので、ここ数年はイベント自体もなかなかできていなかったものですから、以前は赤坂のファミリー公園でさせていただいていた、あかいわ祭りに毎年来ていただいていたという状況でございます。さらに、こちらから、浪江町がいろんなイベントに出られるときにも、私どもの職員も参加をさせていただいております。本年度は、これまでよりは行き来もしやすくなっておりますので、環境センターであったイベントの直近ですけれども、浪江町にも私どもの職員も行って、いろいろと盛り上げさせていただいております。おっしゃられますように、なかなか距離も遠かったりもしますし、もちろん向こうの業務もあつたりしますので、なるべくお互いに負担にならないように交流を進めていきたいと思っております。

おっしゃられますように、ストレートに聞きますと、そんなことはありませんよというふうにはもちろんおっしゃられますが、そういうふうなお気持ちも酌みながら、今後も交流を進めていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） よろしいですか。

安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 1点教えてください。

先週の水曜日の山陽新聞に、京産大生が赤磐市で地域活性化へアイデアということで提言されたという記事が載ってるんですけど、これは以前、民間の副業人材活用ということで、3つの分野のどっかの会社と連携してやるというふうには、事業があつたと思うんですが、それとは別個のものでしょうか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） まず、京都産業大学さん、この前、新聞に掲載してあつた件でございます。

こちらは、あくまでも大学生さんのフィールドワークの土地として、赤磐市を選んで来ていただいて、4月からこちらにまず学生さんが来ていただいてフィールドワークをし、それからいろいろと地域の方々とヒアリングをして、3つの課題をチームごとに設定していただいて、その課題についてどういった解決策ができるかっていうのを考えていただいて、その発表、提言が先般あつたのが記事にされております。

おっしゃられました、当委員会でも1回御報告をさせていただいております副業人材の活用とは全く別のものでございまして、そちらの副業人材の活用については、半年程度、いろいろ

と各部署で課題を出していただいた、部署といろいろとヒアリングをさせていただいております。そちらの成果につきましては、また3月末頃に成果発表を予定させていただいております。

以上です。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） その件なんですけど、3月に発表ということなんですけど、今年度はたしか無料でしたよね。令和5年度の予算にも、これに関連したような予算はなかったように思うんですけど、来年度これを有料で継続するとか、そういう予定は今のところないのでしょうか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 当然、担当部署はいろいろとお話をさせていただいて、有用であるというふうには考えてはおりますが、最終的にまだあと1か月、2か月ありますので、その間の出来栄え等も踏まえながら、本当に導入していくかっていうのは、もう次の年度からはなってくるかと思えます。ですので、令和5年度の当初予算には、その関連の予算は、今のところ計上をしていることはございません。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） ほかに、ないようでしたら。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） 事務局も特にないですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、もうこれでほかにありませんので、以上をもちまして総務委員会を閉会します。

大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

午後0時3分 閉会